

宮城県仙台二華中学校・高等学校 学校イメージ調査の結果について

調査の背景

宮城県仙台二華中学校・高等学校は、開学以来、高大連携事業の一環として東北大学大学院教育学研究科・教育学部と協働し、学校経営改善に関わる調査研究を実施してきました。現在、本校は「総合力日本一の中高一貫教育校」を目指し、今年度から5年間、スーパーグローバルハイスクール(SGH)の指定を受けるなど、真に国際社会に通じるグローバルリーダーの育成を目指した人づくりを進めています。この目的を達成するためには、具体的なデータに基づき、学校経営の実情を振り返り、つねに改善を繰り返していくことが不可欠です。本調査の結果を踏まえて、これまで以上に学校経営の改善に努めてまいります。

学校イメージ調査の概要

本調査は、本校に入学後、比較的早い時期に生徒の実態を把握し、また保護者のニーズを把握することを目的としています。今年度の調査対象は、中学校1年・2年、高等学校1年・2年の生徒とその保護者です。調査項目は、属性、満足度、期待度、自由記述から構成されています。調査時期は7月上旬でした。この時期は、中体連や高校総体、定期試験が終了した時期であり、生徒が学校生活に慣れてきたと思われる時期です。

調査結果から、全体として生徒・保護者とも、満足度と期待度がともに高いことが明らかになりました。

中学生の学習意欲は高く、特に中学1年生においては「よい友人関係を築けそうである」、「自分の意見を発表する機会が設けられている」などの項目で例年以上の数値を示しており、仲間とともに積極的に学ぶ姿勢が認められます。

高校1年生では高入生が全体的に高い意識を持って仙台二華の授業、学校生活に溶け込もうとしている一方、一貫生は「本を読むのが好き」「学校外での趣味」「難問や発展的な問題」「中学生との関わり」など幅の広く、深みのある学びをしているというそれぞれの良さが結果から読み取れます。高校2年生においては例年全体的な数値が低下しがちな時期において、高入生・一貫生が刺激しあうことで全体が下支えされている傾向が見られます。

保護者からは、全般的に非常に高い満足度と期待度が示されています。また「海外研修への参加意欲」「SGHに関する活動への期待度」の項目に関して、高校生とその保護者以上に、中学生とその保護者の意欲・期待度が高いことが明らかになりました。

この調査結果を踏まえ、一人ひとりの生徒の長所をさらに伸ばし、また学校全体として生徒たちの学びの質を高め、本校のビジョンの実現に向けていっそうの改善に励みます。

調査

企画および調査実施機関：宮城県仙台二華中学校・高等学校、東北大学大学院教育学研究科
実施時期：2014年6月30日(月)～7月10日(木)